

船舶事故調査報告書

令和元年10月23日
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決
 委員 佐藤 雄二（部会長）
 委員 田村 兼吉
 委員 岡本 満喜子

事故種類	乗組員負傷
発生日時	平成31年1月23日 08時30分ごろ
発生場所	愛媛県上島町百貫島西北西方沖 百貫島灯台から真方位284° 500m付近 （概位 北緯34° 18.1′ 東経133° 16.2′）
事故の概要	漁船第拾栄丸は、運搬船に係留作業中、甲板員が負傷した。
事故調査の経過	平成31年2月6日、本事故の調査を担当する主管調査官（広島事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	漁船 第拾栄丸、6.6トン HS2-2923（漁船登録番号）株式会社栄丸 14.48m（Lr）×3.40m×1.08m、FRP ディーゼル機関、382kW（動力漁船登録票による）、平成14年9月10日
乗組員等に関する情報	船長 男性 41歳 一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 平成14年10月18日 免許証交付日 平成28年12月13日 （令和4年10月17日まで有効） 甲板員 男性 23歳 二級小型船舶操縦士 免許登録日 平成25年7月26日 免許証交付日 平成29年12月7日 （令和5年7月25日まで有効）
死傷者等	重傷 1人（甲板員）
損傷	なし
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 西、風速 約5～6m/s、視界 良好 海象：波高 約0.7m
事故の経過	本船は、船長及び甲板員が乗り組み、のりの刈取り作業の目的で、のり運搬船（以下「運搬船」という。）と共に、平成31年1月23日06時50分ごろ百貫島西北西方沖ののり養殖施設に向けて広島県福山市箱崎漁港内浦地区を出港した。

	<p>本船は、のり養殖施設に着いてのりの刈取り作業を行った後、のりを積み替えることとし、のり養殖施設の固定用錨に係留していた運搬船の右舷側に左舷着けした。</p> <p>甲板員は、本船が運搬船に左舷着けした際、本船が刈り取ったのりを積載して運搬船よりも低い位置にあったので、本船の左舷甲板上に立ち、両手を顔の高さまで上げた状態で運搬船との係留作業を行った。</p> <p>甲板員は、運搬船側の甲板員が行う船尾側係留索の係止状況を見ながら本船の左舷船首側係留索を運搬船の右舷船首側のたつに係止していたところ、08時30分ごろ船体の動揺で係留索を下から持っていた右手中指を運搬船の舷側上端部と係止した側の係留索との間に挟まれた。</p> <p>甲板員は、本船の係留作業を終えた後、右手中指の痛みが激しかったので、着けていたゴム手袋と軍手を外したところ、右手中指の先端が切断していることに気付いた。</p> <p>甲板員は、帰港して救急車で福山市所在の病院に搬送され、約2ヶ月の通院加療を要する右中指切断及び右中指爪^{そうい}困炎と診断された。 (付図1 事故発生場所概略図、写真1 右手中指を挟まれた時の状況(再現) 参照)</p>
<p>その他の事項</p>	<p>甲板員は、運搬船側の甲板員が行っていた船尾側係留索の係止状況を見続けることなく、船体の動揺に気を付けて手元を見ながら係留作業を行っていたら良かったと、本事故後に思った。</p>
<p>分析</p> <p>乗組員等の関与</p> <p>船体・機関等の関与</p> <p>気象・海象等の関与</p> <p>判明した事項の解析</p>	<p>あり</p> <p>なし</p> <p>あり</p> <p>本船は、波高約0.7mの状況下、百貫島西北西方沖で運搬船に係留作業中、甲板員が、船首側係留索を係止する際、運搬船側の甲板員が行っていた船尾側係留索の係止状況に意識を向けていたことから、船体の動揺で係留索を持っていた右手中指を運搬船の舷側上端部と係止した側の係留索との間に挟まれて負傷したものと推定される。</p>
<p>原因</p>	<p>本事故は、波高約0.7mの状況下、本船が百貫島西北西方沖で運搬船に係留作業中、甲板員が、船首側係留索を係止する際、運搬船側の甲板員が行っていた船尾側係留索の係止状況に意識を向けていたため、船体の動揺で係留索を持っていた右手中指を運搬船の舷側上端部と係止した側の係留索との間に挟まれたことにより発生したものと推定される。</p>
<p>再発防止策</p>	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乗組員は、洋上で係留作業を行う際、他の作業等に意識を向ける

	ことなく、船体の動揺に気を付けて手元を見ながら作業を行うこと。
--	---------------------------------

付図1 事故発生場所概略図

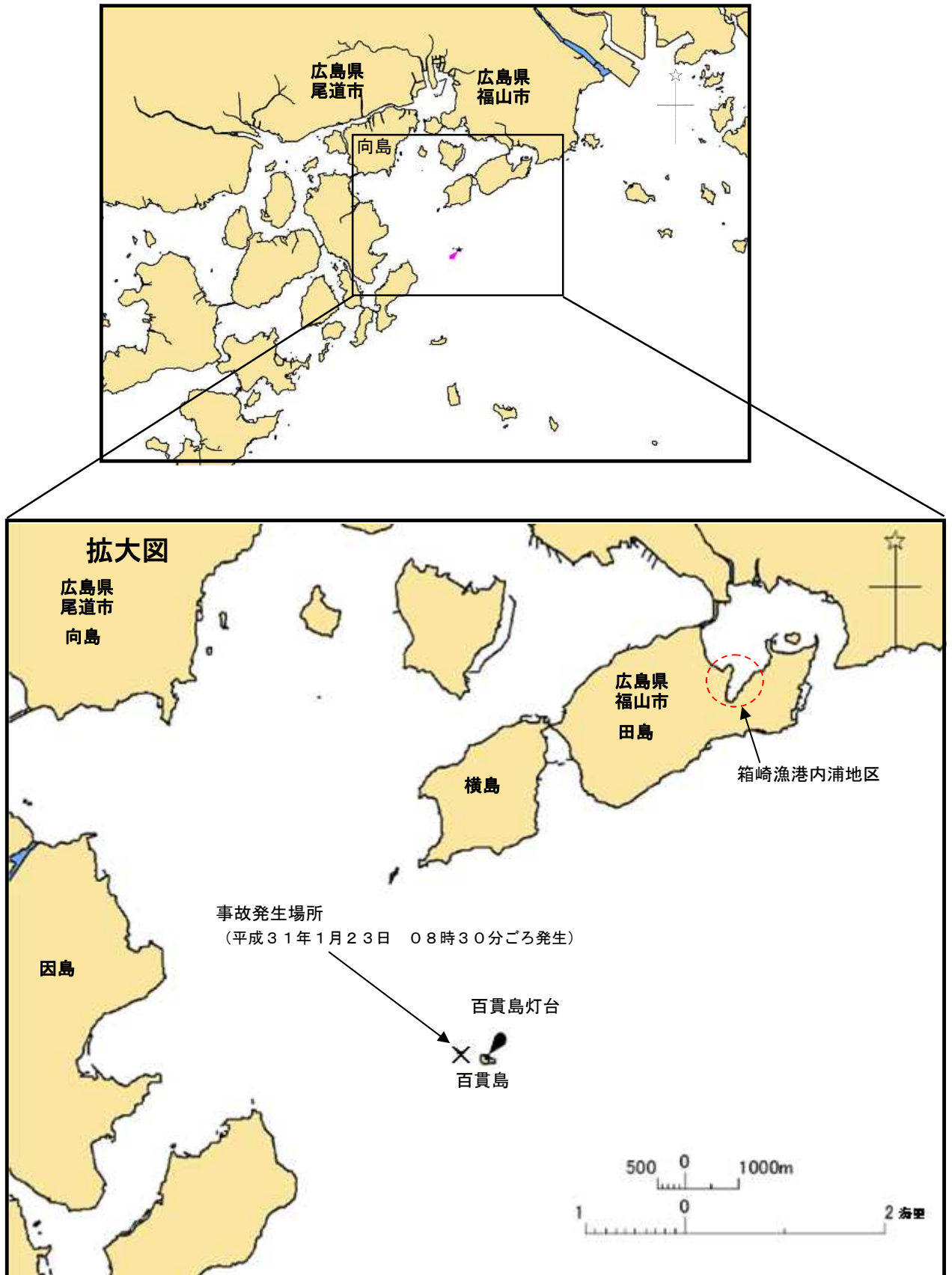


写真1 右手中指を挟まれた時の状況（再現）

